



みかん

消費者に
よろこばれるミカン
をつくりましょう



果樹林産センター
小杉 真啓

《樹上選果》

樹上選果では、病害虫被害果やキズ果、粗皮果等の外觀不良果と規格外の大きさの果実を摘果します。天成り果等の果梗枝が太い果実は、秋芽が発生しないよう果梗枝ごとハサミで間引きます。樹上選果でこれらの商品価値の低い果実をどれだけ摘果できるかが、収穫や家庭選果の省力化、消費者に喜ばれるミカンづくりへつながります。

《秋肥》

秋肥は、果実生産により弱った樹の樹勢の回復、耐寒性の向上、翌春の着花量や発芽量を確保することを目的に施用します。※図①

《浮皮軽減対策》

今月からできる浮皮軽減対策としてクレン

トがあります。炭酸カルシウムを主成分とした新しい浮皮軽減剤で、微粒の炭酸カルシウムが果実表面に薄く付着し、降雨や朝露により果実に付着した水分の乾燥を促進します。着色初期と4〜5分着色期の2回が散布時期となっています。

《病害虫防除》

10月に入っても高温多雨の日が続く場合は黒点病の防除が必要です。ただし、収穫前30日の使用になるので、農薬の適正使用基準に注意しましょう。

秋期のミカンハダニには、果実品質を著しく低下させるので、徹底防除に努めましょう。また、カメムシの秋の発生量は、平年よりやや多いと予想されています。園地をよく観察し、発生に注意しましょう。※図②

図①

時期	品種	肥料名	施肥量	備考
10月下旬	早生	粒状固形26号	80kg/10a	
11月上旬	青島	粒状固形248	60kg/10a	一般土壌
		柑配6号	80kg/10a	耕土の浅い園地

図②

時期	対象病害虫	薬剤名	倍率	使用基準
10月上旬	黒点病	ペンコゼブ水和剤	600倍	30日〜4回
10月中旬	ミカンハダニ	コロマイト水和剤	2,000倍	7日〜2回
	カメムシ・ミドリヒメヨコバイ	ロディー乳剤	2,000倍	7日〜4回
降雨が多い場合	褐色腐敗病	ストロビーD F	2,000倍	14日〜3回